

- For more records, click the Records link at pag end.
- To change th format of selected records, select format and click Display Selected.
- To print/save cl an copies of selected records from browser click Print/Sav S lect d.
- To have records sent as hardcopy or via email, click Send Results.

☒ Select All☒ Clear Selections

Print/Save Selected

Send Results

Display Selected

Format

Free 1. ☐ 7/5/1

012234481

WPI Acc No: 1999-040588/199904

XRAM Acc No: C99-012474

Peelable cosmetic pack, giving reduced skin irritation -
comprises water soluble polymer and specific saxifraga extract, to
provide skin with moist feeling

Patent Assignee: KANEBO LTD (KANE)

Inventor: KURODA A; SAITO M; YAMASHITA Y

Number of Countries: 024 Number of Patents: 003

Patent Family:

Patent No	Kind	Date	Applicat No	Kind	Date	Week
JP 10298026	A	19981110	JP 97123417	A	19970425	199904 B
WO 200002526	A1	20000120	WO 98JP3119	A	19980713	200012 N
EP 1104670	A1	20010606	EP 98931061	A	19980713	200133 N
			WO 98JP3119	A	19980713	

Priority Applications (No Type Date): JP 97123417 A 19970425; WO 98JP3119 A
19980713; EP 98931061 A 19980713

Patent Details:

Patent No Kind Lan Pg Main IPC Filing Notes

JP 10298026 A J 5 A61K-007/00

WO 200002526 A1 J A61K-007/00

Designated States (National): BR CA CN KR US

Designated States (Regional): AT BE CH CY DE DK ES FI FR GB GR IE IT LU
MC NL PT SE

EP 1104670 A1 E A61K-007/00 Based on patent WO 200002526

Designated States (Regional): DE FR GB

Abstract (Basic): JP 10298026 A

A cosmetic pack which contains a water-soluble polymer and the
extract of a saxifraga component.

ADVANTAGE - Reduces irritation on skin during peeling of pack,
giving a moist feeling to the skin, and having a quick drying and
re-moisturising effect.

Dwg. 0/0

Title Terms: PEEL; COSMETIC; PACK; REDUCE; SKIN; IRRITATE; COMPRISE; WATER;
SOLUBLE; POLYMER; SPECIFIC; EXTRACT; SKIN; MOIST; FEEL

Derwent Class: A96; D21

International Patent Class (Main): A61K-007/00

International Patent Class (Additional): A61K-007/48

File Segment: CPI

Derwent WPI (Dialog® File 352): (c) 2002 Thomson Derwent. All rights reserved.

☒ Select All☒ Clear Selections

Print/Save Selected

Send Results

Display Selected

Format

Fre 

© 2002 The Dialog Corporation

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平10-298026

(43) 公開日 平成10年(1998)11月10日

(51) Int.Cl.⁶

A 6 1 K 7/00

識別記号

F I

A 6 1 K 7/00

K

J

U

7/48

7/48

審査請求 未請求 請求項の数 3 F D (全 5 頁)

(21) 出願番号

特願平9-123417

(22) 出願日

平成9年(1997)4月25日

(71) 出願人 000000952

鐘紡株式会社

東京都墨田区墨田五丁目17番4号

(72) 発明者 齋藤 雅人

神奈川県小田原市寿町5丁目3番28号 鐘

紡株式会社化粧品研究所内

(72) 発明者 黒田 章裕

神奈川県小田原市寿町5丁目3番28号 鐘

紡株式会社化粧品研究所内

(72) 発明者 山下 嘉邦

神奈川県小田原市寿町5丁目3番28号 鐘

紡株式会社化粧品研究所内

(54) 【発明の名称】 バック料

(57) 【要約】

【課題】 剥離時の刺激や痛みが低減され、使用後に肌を引き締め、肌にしっとり感を付与するとともに、再湿性、速乾性、利便性に優れたバック料、またはシート状のバックを提供する。

【解決手段】 水溶性高分子と、ユキノシタ抽出物を含有するバック料、またはシート状のバック料、特に、ポリアクリル酸、ポリメタクリル酸およびアクリル酸とメタクリル酸の共重合体からなる群から選ばれる一種、または二種以上の水溶性高分子と、ユキノシタ抽出物と、香料とを含有するバック料、または該バック料が、直接または保持体上にシート状に形成されてなるバック料。

【特許請求の範囲】

【請求項1】 水溶性高分子と、ユキノシタ抽出物を含有することを特徴とするバック料。

【請求項2】 水溶性高分子と、ユキノシタ抽出物を含有し、直接または保持体上にシート状に形成されてなることを特徴とするバック料。

【請求項3】 水溶性高分子が、ポリアクリル酸、ポリメタクリル酸、アクリル酸とメタクリル酸の共重合体の群から選ばれる一種、または二種以上からなり、さらに香料を含有することを特徴とする請求項1、または請求項2記載のバック料。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】 本発明は、バック料およびシート状のバック料に関するものであり、特に、バック料、またはシート状のバック料を皮膚から剥離する際の刺激感を低減し、使用中、または使用後に肌を引き締め、肌にしっとり感を付与する効果に優れたバック料、およびシート状バック料に関する。

【0002】

【従来の技術】 バック料の主流として、皮膜形成能を有するポリビニルアルコール、または酢酸ビニル樹脂等を使用したピールオフ型バック料がある。最近では、これらバック料自体を乾燥するか、または上記バック料を不織布、フィルム等に塗布して乾燥することによって、バック料を薄膜状に加工したシート状のバック料が、その速乾性と利便性等から汎用されている。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】 しかしながら、上記バック料は皮膚に塗布し、乾燥した後に、皮膚から剥離して使用するか、または水や化粧水で濡らした皮膚に、シート状のバック料を貼付し、乾燥させた後、該シート状のバック料を皮膚から剥離することによって、角栓等の肌の汚れを除去することができるが、上記バック料、またはシート状のバック料を皮膚から剥離する際に、刺激や痛みを感じることがある。また、肌の汚れは除かれるが、使用後に肌を引き締めたり、肌にしっとり感を付与する効果が得られない等の問題点がある。また、シート状のバック料の場合には、水や化粧水によってバック料が溶解し再び容易に接着性を発現するという、再湿性が求められる。すなわち、本発明は、剥離時の刺激や痛みを低減し、使用後に肌を引き締め、肌にしっとり感を付与するとともに、再湿性、速乾性、利便性に優れたバック料、またはシート状のバック料を提供することを目的とする。

【0004】

【課題を解決するための手段】 本発明者らは、上記の実情に鑑み、鋭意検討した結果、水溶性高分子と、特定の植物抽出エキス等を配合したバック料、またはシート状のバック料が、上記目的を達成することを見出した。す

なわち、本発明は、水溶性高分子と、ユキノシタ抽出物を含有するバック料にある。または、水溶性高分子と、ユキノシタ抽出物を含有し、直接または保持体上にシート状に形成されたバック料にある。特に、上記目的を達成するためには、ポリアクリル酸、ポリメタクリル酸およびアクリル酸とメタクリル酸の共重合体の群から選ばれる一種、または二種以上の水溶性高分子と、ユキノシタ抽出物と、香料とを含有するバック料、またはシート状のバック料が好ましい。

【0005】

【発明の実施の形態】 本発明のシート状のバック料は、水溶性高分子と、ユキノシタ抽出物と、水等の溶媒とを配合したバック料を、直接シート状に乾燥するか、または不織布、紙、合成樹脂フィルム等の保持体上に上記バック料を塗布した後、溶媒を除去してシート状の積層体に形成することによって得られる。

【0006】 本発明において、水溶性高分子は、成膜性を高めるために使用される高分子物質であり、例えば、ポリアクリル酸、ポリアクリル酸塩、ポリメタクリル酸、ポリメタクリル酸塩、ポリビニルアルコール、ポリビニルピロリドン、ポリアクリルアミド、ポリアクリルアミド塩、ポリメタクリルアミド、ポリメタクリルアミド塩、メタクリロイルオキシエチルトリメチルアンモニウムクロライド、メタクリルアミドプロピルトリメチルアンモニウムクロライド、N-n-ブトキシメチルアクリルアミド、N-i s o-ブトキシアクリルアミド、t-ブチルアクリルアミドスルホン酸、t-ブチルアクリルアミドスルホン酸塩、ジメチルアミノプロピルメタクリルアミド、またはこれら重合性モノマー原料と他の重合性モノマーとの共重合体、あるいはカルボキシメチルセルロース塩、アルギン酸塩、カラギーナン、キサンタンガム等の水溶性高分子が挙げられる。上記水溶性高分子の配合量は、バック料の全重量に対して、1.0~80重量%が好ましく、シート状のバック料の場合には、乾燥後のシート状バック料の水分量が0.1~20重量%の場合、不織布等の保持体を除いたバック料中に2.0~99.4重量%になるように配合することが好ましい。

【0007】 上記水溶性高分子の中で、ポリアクリル酸、ポリメタクリル酸、アクリル酸とメタクリル酸の共重合体の群から選ばれる一種、または二種以上の水溶性高分子が、成膜性、再湿性、肌の汚れを取る接着性に優れるので好ましい。さらに好ましくは、ポリアクリル酸、ポリメタクリル酸、アクリル酸とメタクリル酸の共重合体の一種、二種以上の水溶性高分子と、ポリビニルアルコールとを併用することが、成膜性、肌の汚れを取る接着性に特に優れるので好ましい。上記ポリアクリル酸、ポリメタクリル酸、それらの共重合体は、その一部を他の重合性モノマーと共重合した水溶性ポリアクリル酸系高分子であつてもよく、またポリアクリル酸、ポリ

メタクリル酸、それらの共重合体の一部を水酸化ナトリウム、水酸化カリウム、トリエタノールアミン等で中和した水溶性ポリアクリル酸塩、水溶性ポリメタクリル酸塩、水溶性アクリル酸メタアクリル酸共重合体塩にしてあってもよい。

【0008】本発明において用いるユキノシタ抽出物は、ユキノシタ (*Saxifragastolonifera* Meerb.) の全葉から、例えば、精製水、エタノール、1, 3-ブチレングリコール等で抽出したものであり、該抽出液を濃縮したエキス、または抽出液を乾燥し粉碎した粉末である。一般にユキノシタは古くから民間薬として、葉汁を子供の百日咳、耳だれに、また葉をあぶり、はれもの、やけど、しもやけ等に貼って使用されている。

【0009】特に、本発明で、ユキノシタ抽出物と香料とを併用することが、バック料、またはシート状のバック料の剥離時の刺激や痛みを低減し、使用後に肌を引き締め、肌にしっとり感を付与し、香料によるリフレッシュ、リラックスする効果が顕著に発揮されるので好ましい。これら香料は、天然香料、合成香料、またはそれらを組み合わせた調合香料でもよいが、常温で固型の香料や残香性の高い香料が、シート状のバック料の製造工程で香料が気散することが少ないので望ましい。例えば、メントール、ボルネオール、カンファー、クマリン、インダン系、テトラリン系ムスク、大環状ムスク、ヘリオトロピン等の香料である。その中で、好ましい香料としては、ユキノシタ抽出物と併用することによって、肌を引き締め、清涼感を付与し、リフレッシュ、リラックスする効果が顕著に得られる香料である、メントール、ボルネオール、カンファーの香料が好ましい。

【0010】上記香料のバック料、またはシート状のバック料への配合方法としては、予めバック料に混合するか、または該バック料を直接シート状に乾燥するか、あるいは不織布、紙、合成樹脂フィルム等の保持体に上記バック料を塗布した後、溶媒を除去してシート状の積層体に形成する方法、さらには上記シート状のバック料に用いる不織布に賦香してもよいし、溶媒を除去してシート状の積層体に形成した後に、香料を噴霧してシート状のバック料に含浸させてもよい。

【0011】上記ユキノシタ抽出物の配合量は、バック料の全重量に対して、ユキノシタ抽出物の乾燥残分換算で、0.001~5.0重量%が好ましく、シート状のバック料の場合には、乾燥後のシート状のバック料の水分量が0.1~30重量%の場合、不織布等の保持体を除いたバック料中に、ユキノシタ抽出物の乾燥残分換算で、0.01~10.0重量%になるように配合することが好ましい。同様に香料の配合量は、バック料の全重量に対して、0.0001~1.0重量%が好ましく、シート状のバック料の場合には、乾燥後のシート状のバック料の水分量が0.1~30重量%の場合、不織布等

の保持体を除いたバック料中に、0.001~2.0重量%になるように配合することが好ましい。

【0012】本発明のバック料、またはシート状のバック料には、上記の必須成分の他に、本発明の効果を損なわない限りにおいて、顔料、防腐剤、保湿剤、アルコール、分散剤、油分等の各成分を配合することができる。その中で、平均一次粒子径が0.01~1 μ mの範囲にある酸化チタン、シリカ等の顔料、グリセリン、1, 3-ブチレングリコール、ジグリセリン、プロピレングリコール、トリメチルグリシン、ポリエチレングリコール、ソルビトール等の保湿剤を配合することが、肌からの汚れの除去効果と、肌にしっとり感を付与する効果が増強されるために好ましい。

【0013】本発明のバック料は上記配合成分に水等の溶媒を加えて溶解、または分散させることによって製造される、加える水の量としては、例えば、バック料中に7~70重量%になるようにして、通常の方法で製造される。また、シート状のバック料の製造方法は、上記バック料を樹脂や金属等の基材上に均一に塗布し、乾燥して得られたシート状のバック料を基材から剥離し、所定形状に切断して製品とする。あるいは、ポリエステル、ナイロン、ポリプロピレン、アセテート等の不織布、各種樹脂フィルム等からなる保持体上に上記バック料を塗布し、乾燥して所定形状に切断して、保持体に密着し積層されたシート状のバック料とすることもできる。そして、シート状のバック料の水分率は、0.1~30重量%になるように乾燥することが、製品の形態安定性、柔軟性、肌への接着性、速乾性等から好ましい。このようにして得られたシート状のバック料の厚みは、製品の柔軟性、肌への貼付性等から、5~500 μ mであることが好ましい。

【0014】本発明のバック料の使用方法は、皮膚に塗布し、乾燥して皮膜を形成させた後に、皮膜を剥離して使用する。また、シート状のバック料の使用方法としては、皮膚の貼付部位に水、化粧水等を塗布した後に、シート状のバック料を皮膚に貼付し、乾燥した後に、皮膚から剥離すればよい。

【0015】

【実施例】以下、本発明を実施例に基づいて具体的に説明する。製品の官能評価試験は、次のようにして実施した。

【官能評価試験】女性パネラー20名を使用し、洗顔後、鼻に水を十分に塗布し濡らした後、シート状のバック料を鼻筋から小鼻に向かって貼り付け、約10分間で乾燥後、シート状のバック料を剥離する。そして、「再湿性(溶解性)」、「肌の汚れの除去効果」、「剥離時の刺激や痛みの程度」、使用後の「肌の引き締め効果」、「肌にしっとり感の付与効果」の各評価項目について、「良い」と答えた人数で評価した。

【0016】実施例1~4、比較例1~3 (シート状の

バック料)

表1の配合成分からなる分散溶液を製造し、ポリプロピレン不織布(30g/cm²)に均一に塗布する。次いで、乾燥することによって水分が10重量%含み、バック料部の厚みが200μm前後のシート状のバック料を調製し、得られた本発明のシート状のバック料の表面を、シリコーン処理ポリエステルフィルム製の離型紙で覆い製品とした。製品の使用時には該離型紙をとって、上記官能評価試験を実施した。また、比較例として表2の配合成分で、同様にしてシート状のバック料を製造し

た。なお、ユキノシタ抽出物の配合量は、乾燥残分換算であり、また表1～2における配合成分である、フィテレンEGX-250(商品名、一丸ファルコス社製)とは、常春ツタ、子ボタンツル、海藻、スギナ、シモツケの混合抽出エキスである。上記実施例1～4と、比較例1～3のシート状のバック料について、前記の官能評価試験を実施し、表1～2の下欄のような評価結果を得た。

【0017】

10 【表1】

配合成分		実施例1	実施例2	実施例3	実施例4
ポリアクリル酸		1.0	27.6	22.6	1.0
アクリル酸メタアクリル酸共重合体		35.3	—	30.0	35.0
ポリビニルアルコール		5.4	6.0	—	5.4
ポリアクリルアミド		—	—	1.5	—
ポリビニルピロリドン		18.8	—	—	18.8
グリセリン		4.2	4.2	4.2	4.2
酸化チタン		3.0	3.0	3.0	3.0
シリカ		5.0	5.0	5.0	5.0
パラオキシ安息香酸メチル		0.02	0.02	0.02	0.02
ユキノシタ抽出物		0.3	0.3	0.3	0.3
フィテレンEGX-250		0.2	0.2	0.2	0.2
エタノール		2.4	2.4	2.4	2.4
香料(メントール系)		0.5	0.5	0.5	—
精製水		残余	残余	残余	残余
評価結果	再湿性	18	15	17	18
	肌の汚れの除去	14	19	14	14
	刺激等なし	17	18	15	17
	肌の引き締め	19	17	16	13
	肌のしっとり感	14	15	13	14

【0018】

【表2】

配合成分		比較例1	比較例2	比較例3
評価結果	ポリアクリル酸	—	27.6	22.6
	アクリル酸メタアクリル酸共重合体	—	—	30.0
	ポリビニルアルコール	5.4	6.0	—
	ポリアクリルアミド	—	—	1.5
	ポリビニルピロリドン	18.8	—	—
	グリセリン	4.2	4.2	4.2
	酸化チタン	2.4	1.2	1.2
	シリカ	—	1.2	1.2
	バラオキシ安息香酸メチル	0.02	0.02	0.02
	ユキノシタ抽出物	—	—	—
	香料(メントール系)	—	—	0.5
	フィテレンEGX-250	0.2	0.2	0.2
	エタノール	2.4	2.4	2.4
	精製水	残余	残余	残余
	再湿性	10	14	16
	肌の汚れの除去	12	16	11
	刺激等なし	11	7	8
	肌の引き締め	9	9	10
	肌のしっとり感	10	9	10

【0019】

【発明の効果】以上述べたように、本発明のパック料、またはシート状のパック料は、剥離時の刺激や痛みが低

減され、使用後に肌を引き締め、肌にしっとり感を付与するとともに、再湿性、速乾性、利便性に優れていることは明らかである。